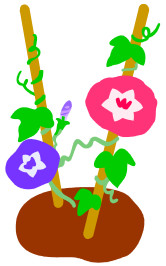




# 星川だより

# 夏



## 熊谷空襲を忘れない市民の会 会報

### 「3・11」 リレーイベント報告

8年目の「3・11」、熊谷市を中心に障がいを持つ人たちの生活向上を目指す在宅ライフ倶楽部と熊谷空襲を忘れない市民の会は、「3・11を忘れない」を共通テーマにリレーイベントを開催しました。本号では当日の様子をレポートします。

#### 在宅ライフ倶楽部の催し

3月17日(日)  
太田初子講演会「夢は流されない」立正大学(アカデミックキューブA205教室)

東日本大震災から8年が過ぎた。しかし、未だ原発の処理はできず、多額の税金をつぎ込んでいる。

津波で失われた多くの命、失った家や財産、そんな過酷な状況の中で生き抜いた太田初子さんの講演は、体験した人でなければわからない心の叫びが伝わってきた。交通事故で障がいを持った体で太田さんがレスキューのロープに引き上げられ何とか命をつないだ様子も生々しかった。



・自分の家の玄関前に家具、車、家までが次々に流されやってくる

・ヘドロを飲み込んでしまうと、肺に溜まるため気管支炎がおこり、咳が出る

・お金がなくなってしまうので三千円貸してと言うと、断られた(みんな自分のことで精いっぱいなのだ)

・避難所で服をかけるS字フックがほしかったが、みんな取り合えなかった

太田さんが避難所ではしかった物を見せてもらったので参考になった。たとえば、ハンダタオルを三枚輪にしておく、使い勝手がよいことなど。

3月24日に仮設にやっと入れたが、一人4畳半分、冷蔵庫、炊飯器、ガスコンロだけで他には何もないので、茶筒やポットなどは自分で買った。車の保険は被災者が多いためお金が入りません。

そんな中でも太田さんが自分に言い聞かせたという「感謝、希望、工夫、謙遜、行動」。見事な太田さんの生き方に、私たちは、これから自分もいつ遭うかも知れない災害を乗り越えるための大きな勇気をいただいた。

(米田主美 ※この講演会の様子は当日のNHKニュースで放映されました)

#### 熊谷空襲を忘れない市民の会の催し

3月23日(土)  
シンポジウム「被ばく地からのメッセージ」  
コーディネーター 加藤一夫さん  
現地報告 ①高橋次男さん(ビキニ) ②桑原正人さん(フクシマ) 熊谷市緑化センター2階・1階ホールで絵画とパネル展

この催しは「3・11忘れないリレーイベント」として、在宅ライフ倶楽部と私たちの会が一緒に取り組んだ初めての試みでした。あれから8年、世間では原発問題は隅に追いやられ、オリンピックを始めてすぐお祭り騒ぎ、皇室報道などが幅をきかせています。3・11の話もお涙頂戴、あるいは責任の所在をうやむやにするものが多いようです。

「そうじゃないだろう、私たち一人一人の暮らしから見えてくるものがあるはず」という視点で取り組めたことは、より幅広く会の存在をPRできて、私たち自身のステップアップにつながりました。

私が熊谷で働く福島出身の大工・桑原正人さんを知ったのは、お正月の『埼玉新聞』特集記事でした。第一原発から十三キロメートル地帯に住んでいたこと、避難生活の後、熊谷に居を定め結婚したこと、同時に家族・同級生にも犠牲が続いていたことを知りました。

会場にタイ人の奥様と仲よく姿を現した桑原さんは人なつっこい笑顔の方でした。後でわかったことですが、新聞ばかりかテレビ取材を受け、勤め先





の築地住建のプログに何度も登場しています。自分で建てたばかりのマイホームにもう帰還できないとわかって、なおも

前向きに「自分の手で埼玉に家」と真面目に仕事する桑原さんにはファンも多いそうです。自宅では、自衛隊のヘリコプターから避難指令を聞いた桑原さんの言葉は説得力がありました。その上、飛び入りで登場した桑原さんのお父様。東電に勤務していたそうですが、今や熊谷在住で放射能被ばくデー

タの専門家。膨大な資料を持参し、参加者からの質問に答えていました。実は開会前、公園内で測定器を取り出して計測している姿に駆け寄りました。忘れっぽい国民性というか、「赤信号みんなで渡れば怖くない」みたいな私たちですが、放射性物質はそう簡単に除染できる訳ないし、しっかりと行政と連携していなければならぬはず。

階下には2019年1月熊谷スポーツ文化公園放射能マップ(HSF市民測定所・深谷)も展示されました。

一方、高橋次男さんは本庄で居酒屋を営み、天衣無縫な絵で「核廃絶」を訴えています。講演に先立って有志で「さんご」へ行きました。店の内外に、所狭しと自作の絵と掲載新聞記事や愛川欽也・菅原文太のサインが並びます。心のままにどこにでも飛んでいく情熱の持ち主ですが、その原点は、マーシャル諸島で館職人として働き、身近に見聞したこと。アメリカ・日本・ビキニという関係性が浮かび上がってきた時、高橋さんは焼津で出会った黒田征太郎に触発されて絵を描き始めます。自由に描く絵、投書などで、次から次へと人とつながっていくパワー。「こんなこと、おかしいよ」という祈りにも似た作品と人間性に心から共鳴しました。

メッセージを受け取った時、踏み出す一歩。それはとても尊いし、それが今を生きるということなんじゃないかな。勇気をもって歩み続けたいです。

(小川美穂子)

熊谷空襲75周年記念出版プロジェクトが始動

来年2020年は、熊谷空襲から75周年という節目を迎えます。しかし時の経過は、75年前、焼夷弾が雨あられのごとく降り注ぎ、熊谷市街のほとんどを焼き尽くし、多くの市民が死傷したという事実を風化させようとしています。また体験者も少なくなってきたという現実もあります。そこで熊谷空襲を語り継ぎ、平和について考えるための出版プロジェクトが、市民有志により立ち上がり、熊谷空襲を語り継ぐ活動は、今までも体験者や市民により行われてきました。私たちは、そういった先人達の成果を引き継ぐ形で、新しい視点など盛り込みながら、進めて参りたいと思っております。また、こういった活動を若い人たちに引き継ぐことも重要と考えています。みなさんのご協力をお願いしたいと思います。

## 熊谷平和講座

### 熊谷平和講座

熊谷空襲を忘れない市民の会 賛同人/講座参加者各位

熊谷空襲を忘れない市民の会では、毎月一回、静岡福祉大学の学長だった加藤一夫さんを講師に平和について学んでいます。是非ご参加ください。

<ご案内>

### 空爆の歴史と空襲被災者(再論)

2019年夏に向けて

講師: 加藤一夫さん

熊谷市在住。元静岡福祉大学学長、名誉教授。熊谷空襲を忘れない市民の会賛同人。

日時: 7月13日(土) 15時15分~16時45分

場所: 熊谷市市民活動支援センター 会議室

熊谷市曙町5-67 (熊谷駅徒歩約10分) 駐車場あり

参加費: 無料

主催: 熊谷空襲を忘れない市民の会 問合せ: 070-5551-7734 (ひがし)

<8月の熊谷平和講座>  
8月17日(土) 9:30- 会場: 熊谷市市民活動支援センター  
テーマ: 未定

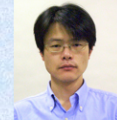
2019年夏の企画、毎日新聞記者 栗原俊雄さんの講演会です。

熊谷空襲を語り継ぎ平和について考える講演会・2019年夏

## 熊谷空襲と東京大空襲

~常夏記者の取材ノートから~

●講師 栗原俊雄さん(毎日新聞記者)



プロフィール  
1967年生まれ。東京都出身。早稲田大学政治経済学部政治学専攻、早稲田大学政治学専攻院修了(日本政治史)。1996年毎日新聞入社。熊本支局などを経て現在、毎日新聞編集局編集 宇都宮担当  
2009年、第3回足利市一歩賞を受賞  
父 栗原光雄さんは、東京朝日新聞で熊谷高校OB

●日にち 8月25日(日)

●時間 開場 13:30 開始 14:00 終了 16:00

●会場 熊谷市荒川公民館 3F ホール  
熊谷市宮前町1-24-1 電話 048-525-0252

●資料代 300円

●主催 熊谷空襲を忘れない市民の会  
連絡 090-2491-1283 (米田) 070-5551-7734 (栗)

●後援 熊谷市教育委員会

熊谷空襲を忘れない市民の会

【熊谷市】市民生活センター(公民館)

【熊谷市】市民生活センター(公民館)

【熊谷市】市民生活センター(公民館)

【熊谷市】市民生活センター(公民館)

【熊谷市】市民生活センター(公民館)

【熊谷市】市民生活センター(公民館)

【熊谷市】市民生活センター(公民館)

### ~ カンパのお願い ~

熊谷空襲を忘れない市民の会では、広く活動費用を募るため口座を開設しました。ご協力のほどよろしくお願いいたします。  
なお、会計報告はこの紙面により行います。

### ゆうちょ銀行

口座記号・記号: 00100-7-265321

加入者名: 熊谷空襲を忘れない市民の会

口座名称カナ: クマガヤクウシュウワス

レナイシミンノカイ

### 他行からの振り込みの場合は

店名(店番): 0-9店(019)

預金種目: 当座

口座番号: 0265321

### 会計報告(2019/01/16~2019/06/18)

収入: 55,965円

支出: 98,857円

残高: 89,637円

編集担当者を募集します。

編集委員 吉田庄一 米田主美

連絡先 吉田庄一(090-4957-9181)

メール imajn241@gmail.com